

1. 日本も急速にキャッシュレス社会へ突入か

全世界では急速にキャッシュレス社会が浸透してきています。その浸透速度は早すぎて、私の老眼では捉えることができません。私だけであれば良いのですが、日本の経済社会がこのキャッシュレスの流れに乗り遅れると、ちょっと前まで日本経済に対する嘲笑の象徴として言われていた「周回遅れの日本」が復活するかも知れません。

さて隣国の中国では90%以上、韓国は90%弱ものの決済が既にキャッシュレス化されています。街のちょっとした買い物や飲食でもスマホの画面にあるQRコードを読み取って決済するというのが日常の風景となっているようです。他の先進各国では浸透率40%~60%が大半を占めています。

先日、TVQの「YOUは何しに日本へ？」を観ていたところ、来日したベルギー人が「自国では随分前からカード等のキャッシュレス決済なので、現金の引き出し方が分からない」とぼやいていました。個人の世界では完全にキャッシュレスが主流です。**クレジットカード、電子マネー、プリペイドカード、テビッドカード、スマホ決済等々大小問わず商取引の現場で現金(キャッシュ)の収受がなされない場面が多くなってきました。**

「中国は90%以上」と前述しましたが、日本はまだ15%程度です。政府は「2025年に40%達成」と目標を掲げていますが、現金志向の強い日本人。さてどこまでキャッシュレスが浸透するかは未知数です。しかし、**外田に弱い日本**。活況なインバウンド市場で訪日客4千万人も達成しそうではありません。しかし先のベルギー人のように、「現金の使い方が分からない」外国人が増えるのですから、爆買いどころかちょっとした買い物にも不自由する外国人(特に中国人と韓国人)が散見されるようになります。こうなると小さな街の飲食店でもキャッシュレス決済が始まってくるかも知れません。

私が所属する診断士協会では8月1日に**キャッシュレス決済に関し第一人者である高木純氏を東京から招聘し研修会を開催**しました。氏が経営する**NIPPON Tablet**では**無償で貸し出すタブレット端末でキャッシュレス決済もできる**とのこと。関心のある方は宜しければHPで検索をしてみてください。

2. 長期金利が緩やかに上昇していくのか?

今日の大分合同新聞(共同通信発)に日本銀行の総資産が549兆円となり日本のGDPを越したという記事が掲載されていました。黒田総裁が5年前に始めた国債や株式購入等の手法を手当り次第に活用して量的緩和を実施。市中にはお金が余っているにも関わらず物価上昇率2%達成は先の先。

一方で、購入した国債等で日銀の総資産が膨らんでいます。仮に日銀が株式を売却するとなれば株式相場は暴落するかも知れません。金融緩和の出口戦略は極めて難しい局面になっています。

米国発の中国やトルコ、イラン等諸国を対象に混沌とした世界情勢は日本にも徐々にダメージを与えて来ています。何故か「基礎的な経済力は弱いものの他国通貨より安全だ」という理由で円は買われます。米国FRBはトランプ大統領の警告に関心を寄せながらも利上げを続けています。

このような中、**市中の長期金利が上昇の気配**を示しているようです。**都銀や地銀等金融機関の収益性が急速に悪化**しています。このような状況下では、**今後は調達金利の上昇圧力が高まっていく可能性に注意**が必要となってきました。

3. 本の紹介

大リーグ“ロサンゼルス・エンゼルス”の大谷翔平。HRを12本放っていますが投手では勝ち星は4勝止まり。ベーブルースの偉業、10勝10本を今季達成することはできない可能性が高そうです。

この大谷翔平選手は昨季まで北海道日本ハムファイターズに所属していました。この日本ハムの監督が栗山英樹氏。氏は東京学芸大学を卒業し、ヤクルトスワローズで7年間の現役生活を送っています。選手生命を絶たれる怪我に悩まされ、優れた運動能力を持つ他選手を追い越すために猛練習を重ねています。

たった7年の現役生活でコーチ経験もない氏が2011年に日本ハムの監督に就任した後、**リーグ優勝2回・日本一1回**を成し遂げています。**その原点が渋沢栄一の「論語と算盤」にある**というのが**「育てる栗山英樹「論語と算盤」の教え(宝島社)」**で語られています。大谷翔平や中田翔の育て方等が語られています。**その教本が「論語と算盤」**だということです。